

令和4年度 加藤学園暁秀高等学校・中学校 自己評価

校訓	至誠・創造・奉仕
教育の柱	人間教育・大学進学教育・国際理解教育
教育の目標	校訓のもと、豊かな人間性を持ち、地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成を教育の目標としています。
本校の特徴	生徒個々に応じた細やかな進路指導や少人数での授業及び講習を通して、国内・外の難関大学を含めた大学への進学希望を叶えることを目指します。また、日本で初めてIB(バカロレア機構)の認定校となり、バイリンガルコースでは中学・高校ともに英語・国語・体育以外の教科を英語で行い、アクティブラーニングの先駆校となっています。
概況	静岡県東部地区においての人口が年々減少しており、生徒募集は厳しい時代になっています。暁秀中高では、生徒個々の進路希望を叶えられるように細やかな指導を行っており、募集活動を通じてその指導内容や実績を様々な方法でアピールをしています。また、新型コロナウイルスによる感染の状況が変化中、感染対策を徹底し暁秀祭や修学旅行等多くの行事も予定通り実施する事ができました。

自己評価(学校全体に対する評価)

評価項目	活動項目(指導項目)	活動状況	達成評価 5段階	昨年度の 評価	良かった点や反省、次年度以降の方策など	過年度(2021年度)良かった点や反省、次年度以降の方策など
○授業等について	ア 教員の資質向上への取組	各教科で研究授業を行い、見学や反省会をすることで研鑽をつみ、授業の改善へと繋げる。	3.3	3.1	昨年度と比べてオンラインでの授業が減り、通常の授業形態で行えた。次年度はコロナ以前のように教科での研修・公開授業・そして授業参観などが行えると思われる。	・教員全体として、オンライン授業についてのスキルが向上しました。高校は主にzoom、中学は主にmeetを用いた遠隔授業ができました。
	イ 説明・板書・発問の方法や実践	日々において、魅力ある授業やわかりやすい授業を考察し実践をする。	3.8	3.2	通常の授業に戻り、授業では板書を増やし、グループワークも行えるようになってきたことで評価が上がったと思われる。また、授業準備の時間も以前よりも余裕が出てきた。	・感染の収束が見えてこない一年間であり、教員の研修計画も昨年同様予定通り行えませんでした。オンライン授業で使う教材の作成やパソコンのソフトを用いた授業展開の工夫が見られました。
	ウ グループ学習	生徒自身が考え、発言できる授業への取り組みをする。ただし感染対策を優先して実行する。	3.6	3.7	総合学習や修学旅行事前学習においてグループワークを行い、それを発表する場を設けることができた。またその発表を振り返ることで、次の学年の学習に繋げている。	・高校でのポートフォリオ、中学全学年でキャリアパスポートが2年目を迎えました。コロナ禍ではありますが授業内のグループワークはできていました。
	エ 学習に適した環境・学級経営	習熟度別授業を多く取り入れ、生徒個々の進路や学習状況に応じ、少人数の授業も多く展開している。	3.9	3.9	学校全体では、1つの授業における生徒の人数を平均してみるとかなりの少人数となる。できる範囲で習熟度別にしたり、少人数によって理解を深められる授業を展開している。	・少人数、習熟度授業は継続して実施しました。生徒と教員との距離は近く、質問する生徒が多く見られました。高3の個別演習も感染対策を考慮しメールでのやりとりなど工夫して実施しました。
	オ コンピュータや情報を活用した授業	情報機器等の授業への活用を実践し、教材やソフト等の研究を進める。	3.7	3.7	教科により、パソコンの使用頻度、目的は違うが、原則生徒は1人1台のパソコンを用意して課題の提出や授業内の調べ物、あるいは総合学習での活用を行った。	・タブレットやパソコンを使った授業は増加しました。保管場所や破損の心配もありましたが、生徒に1台ずつパソコンを持たせ授業で活用しました。現在のWi-fi環境は随時工事を行い、ストレス無く利用できるようになりつつあります。
○教育課程	ア 教育課程の編成・実施についての教員間理解	中学と高校の関連を考えた授業を行い、各コースの到達目的に沿った教育課程の精査と改善をする。	3.7	3.6	高校1年生が新課程に切り替わった年度となった。続けて来年度の高校2年生は新課程で、先の大学入試の変化も踏まえ、指導内容等、順次対応を進めている。	・次年度、高校の教育課程が変更になるため、コース別のカリキュラムの確認を行いました。新教育課程での「探究」をどのように進めていくのか。また高校に観点別を導入することにより評価をどのようにするのかを検討しております。
	イ 授業時数の確保・実践	夏期や冬期の講習や放課後の講習を通じて、授業内容を補完し、実践力をつける。休校時の授業の補填を行う。	3.9	3.7	昨年度に比べて、通常の形態での授業が実施できたことが評価の向上に繋がったと思われる。夏期、冬期の講習の実施も予定通り行うことができた。	・放課後の講習の内容、実施形態についての見直しは継続し、教科ごとのに必要に応じて柔軟に対応しました。また、実時間数、短縮授業による総時間数の減少があり、次年度以降、減少分を講習等でしっかりと補っていきます。
	ウ 観点別の評価・評定の状況	変更があった観点別評価方法について各教師が取り組む。その際、多面的に生徒の力を測り、考える力を育むように繋げる。	3.8	3.2	高校1年生には今年度から観点別評価が新しく加わった。教科においては観点別評価方法に差異があり議論もしてきたが、この1年で新しい評価の方向性が確立された。	・来年度より、従来の4観点が3観点へと変更になり、高校1年生から新規観点別評価が導入されます。各教科は観点別評価基準を設けて、個々の表現力や積極的な態度などを評価いたします。
	エ 図書館の活用、読書活動の推進	中学・高校ともに朝読書の時間を毎日10分間設けている。また、読書カードを図書委員が中心となって集計し、クラスや個人で競い、年度末に表彰している。	3.7	3.2	朝礼前に読書の時間を設け、日頃の読書習慣をつけるようにしている。また、貸し出し冊数ランキングを行ったり、読書カードで生徒同士で本を推薦する等の工夫を行った。	・毎朝の読書の時間を設けたり、貸出本数ランキング、読書カードで生徒たちが読書するきっかけを多く作っています。
	オ 体験活動の実施状況	中学では合宿を通じて富士山についての理解を深め、自然体験を通して環境について考察する。高校では進学に繋げていくための職業学習、大学見学を行う。	3.9	3.2	感染の状況にもよるが、昨年度に比べて、多くの体験学習を実施できた。次年度以降はよりコロナ以前の状況に戻れることを期待している。	・体験学習については、コロナ禍では比較的その機会は少ないですが、高校は進路や大学に関わることを学び、中学は地域や世界の環境、個人と社会との関わり、またSDGsについて学んでいます。
	カ 部活動の実施体制・状況	中学・高校ともに部活動は希望参加である。公立中学の部活動の指導が見直される中、積極的に活動を希望する生徒に寄り添えるように活動していく。	3.4	3.4	部活動もコロナ以前の通常通りとはいかなかったが、中高ともに公式戦も行われ、徐々に部活動も活発に行えるようになってきた。	・文科省からの感染対策や実施のガイドラインに沿ってほぼ全ての部活動が計画通りに活動ができていました。また、教師と生徒との信頼関係を維持し、生徒達の体と心の成長に大いに役立っています。

○進路指導	ア キャリア教育について	殆どの生徒が大学への進学を希望している。文理・国私選択及び大学・学部学科選びに繋げるように講演会やオンラインでの大学説明等を行っている。	4.1	3.7	自分の将来の目標を早く定め、それに向かって計画性を持って学習する姿勢を早く作れるように中高の学年毎に計画を立てて進めることができた。	・本校はほぼ100%大学進学を前提としてカリキュラムを組んでいます。生徒達が大学進学の意味を理解し、必要な学力をつけつつ、それが各自の生涯の仕事に繋るように取り組んでいます。
	イ 職業観の育成、地域との連携	本校の卒業生に開校記念式典等で講演してもらい、生徒達の進路選択のきっかけとしている。コロナ渦でないときには保護者の協力を頂き職場の体験を行った。	3.8	3.1	学年によりSDGsについて考えたり、地域の問題についてまとめるプログラムも行った。生徒達が人や地域について関心を持つことで将来の職業観に繋がって欲しいと思う。	・学習への意欲を高め、地域の特色を学び、将来、地域に貢献できる人材の育成を目指しています。生徒は、オンラインでの講座やパソコンを用いた調べ学習によって、地域や環境についての知識や理解を深めました。
	ウ 大学進学指導について	有名私立大学の方に来校してもらい、高校3年生1人につき2つの大学の話が聞けるような説明会実施した。	4.3	4.0	具体的な志望校を決定する上で、首都圏を中心として大学に依頼をして、オンラインなども活用しつつ各大学の特徴を生徒に説明する機会を設けた。	・昨年から大学入学共通テストになり、今年度の試験はさらに難化しました。また、昨年と同様に、推薦やAOの入試希望者が多く、学力のみでは入試に対応できなくなっています。その中でも教員が個々の生徒に寄り添っての進路指導をいたしました。
○生活指導	ア 教職員全体の意識	自分のクラスだけではなく、学年団全体で生徒を指導していくことを心掛け、指導する人に負担が集中しないように心掛ける。	3.5	3.5	生活指導部を中心として、学年主任、クラス担任の情報共有を徹底している。また、保護者との連携を丁寧にとることによって、問題が大きくなる前に防ぐこともできている。	・学年を越えて情報を共有したり、問題行動が大きくなる前に迅速な対応を心掛け、些細なことでも担任と保護者が連絡を取るようになっています。
	イ 問題行動への対応	報告、連絡、相談をしっかりと行い、問題を共有し担当教員だけが問題を抱え込まない。問題行動には処罰ではなく指導という視点で保護者に対応する。	3.9	3.8	問題行動の発生時には、生徒の人権を尊重しつつ寄り添うよう心がけている。該当生徒に、問題が起きた原因を理解させ、それを繰り返さないよう生徒自らが考えられるよう継続した指導を行っている。	・交通安全、非行防止、携帯マナーの各講座を年度の早い時期に行いました。自宅での時間の増加とともに、生徒に関して、ネットの危険度や、不登校などの心配も増えています。
	ウ スクールカウンセラー等教育相談の現況	保健室の教員を中心として生徒の相談にのっている。また、スクールカウンセラーの先生を2人お願いしている。	4.3	4.3	スクールカウンセラーを2人配置している。生徒はもちろん、保護者の利用も促している。保護者は、担任を過ぎずにカウンセラーと日程が合わせられるようになっている。	・カウンセラーは2人配置しています。生徒や保護者がなるべく気軽に利用できるように養護教員や担任等が呼びかけて、多くの生徒保護者が利用しました。
	エ 基本的な生活習慣を身につけさせる工夫	担任を中心として、生徒の面談、長期休暇前の三者面談、放課後の指導や部活顧問との連携、時に応じて家庭訪問を行う。	3.8	3.8	長期休暇前の三者面談を通して、家庭での様子、学校での様子の情報交換を行い、家庭と連携して生徒の生活習慣の指導を行った。場合によっては家庭訪問を行った。	・部活動や生徒会の活動を通じて、挨拶ができる生徒の育成をしています。また、保護者にも協力を得て、検温チェック、マスクの着用など感染の拡大防止ができています。
○保健管理	ア 感染症予防に対する取組	新型コロナ対策のため、検温のチェック、アルコール消毒、手指用アルコールの準備を毎日行っている。換気を促し教室の空気の入換えにも注意を払う。	4.2	4.3	教室や体育、暁秀祭、修学旅行、合宿等での感染事例は認められなかった。一方で部活動を起因とする感染拡大例が2例あった。オミクロン株の感染力の強さが際立った。	・新型コロナに関しては、校内での生徒同士の感染はしっかりと抑えることができました。これからもコロナウイルスに対しての警戒は緩めることなく取り組みます。
	イ 薬物乱用に対する意識向上	年間計画の中に薬学講座を設けて、生徒が薬物に対しての最新の知識をつけ、危険薬物についての認識を深めている。	4.0	3.9	薬学講座は、感染対策のため密にならぬように人数を抑え、換気も行った上で体育館で行う事ができた。生徒達は薬物依存の恐ろしさや薬物の犯罪の多さを深く学んだ。	・今年度は薬学講座を実施することができました。生徒達は、薬剤師の話から、薬物犯罪の実状と薬物の使用の怖さを学ぶことができました。
	ウ 健康診断・健康観察・疾病予防	既往症についての把握、合宿などでの食物アレルギーについての調査など本年度は、健康診断は夏までには終了。歯科・耳鼻科眼科・内科・レントゲン・心電図等々	4.3	4.3	年度当初に予定されている生徒・教員の健康診断は予定通り行う事ができた。また、毎朝、管理部で消毒を行うなど感染予防に対する意識も継続できた。	・昨年度は検査時期が遅くまでずれ込みましたが、今年度は予定通りに検診を行えました。既往症を持っている生徒達に対しても個々に対応ができました。
○安全面	ア 施設管理や点検	多くの職員が目で見られるところを指摘してもらい。すぐに対処している。水質検査、防火施設の点検なども定期的に行い。施設の補修も随時行っている。	3.8	3.7	例年通り、水質、配管、防災設備など法令で定められている点検はしっかりと実施した。また、今年度は体育館のトイレの改修を行った。	・随時、水質や配管等の点検を行っています。また、施設の中では3階のトイレのリニューアルを行い、今回で校舎内のトイレはすべて改修が終わりました。
	イ 緊急時の対応(悪天候等)	遠距離通学者も多く、荒天が予想される場合は各家庭で安全を最優先して登校の判断をさせていただいている。臨時休校の際には予備日に授業を確保する。	4.1	3.9	風水害による臨時休校はなかった。荒天時は欠席扱いとしないことを前提に各家庭の判断での登校とした。コロナによる臨時休校が1日有り、追加授業日を設定し実施した。	・今年度は1日、台風により臨時休校を行いました。また、降雪時などは地域によつての差もあり、登校の判断は各家庭にお願いしました。夏には、防災倉庫の点検を教員と生徒で行い、災害時に必要な物資の確認をしています。
○保護者との連携	ア 保護者との連携と生徒のボランティア精神を育てる	感染状況を見ながら、保護者の協力の下新しい形でのバザーの開催が行えた。感染終了後にも繋がっていくバザーの提案となった。	3.8	2.9	以前のバザーの形とは大きく異なるものであるが、SDGsを意識した制服のリサイクルも取り入れて、感染対策をしつつ、生徒達も楽しめるバザーが行えた。	・本年度も、感染のリスクを考えてバザーは中止となりました。来年度以降の新しいバザーを模索しています。バザーでは生徒のボランティア精神を育みつつ、収益金の一部を福祉協議会に寄付をしたり、本校の施設の拡充に当てています。
	イ 地区会活動	例年、各地区の保護者が主体となり、保護者、生徒、教員が協力してボランティア活動等を行うが今年も活動は難しかった。次年度は行えることを期待する。	3.2	2.6	3年間、地区会活動らしいものは殆どできてないが、次年度は行動の制限もなくなり、防災・減災活動の面からも、再び地区会活動が行えることを期待する。	・例年、各地区毎に地域での貢献を考えつつ、清掃活動などを行いますが、今年度もコロナの影響により活動ができませんでした。従来は各地区での保護者の交流を深め、特に遠方通学者の保護者同士の情報の交換の場となっていました。
	ウ 学校便り・学年通信・ホームページの活用	学年便りを月毎に発行し、行事予定や部活動の結果を載せている。ホームページにも生徒の活動や行事などを掲載する。また緊急時はメールにて保護者へ一斉配信をしている。	3.9	3.7	ホームページの更新が頻繁に行われ、部活動や様々な行事における生徒の様子を保護者に知っていただけた。また、動画の視聴で他校の生徒が本校を知っていただく機会にもなっている。	・今年度も積極的にホームページをリニューアルしたりブログを配信し、行事等の情報が多くアップされました。また、『きずなネット』では、緊急時のメールやオンライン保護者会の案内等を配信しました。
○保護者の満足度	ア 授業に対する満足度・評価	授業、講習・個別指導について、教師への保護者の満足度	4.2	4.2		
	イ 施設や環境等に対する満足度・評価	校舎内外、教室、運動施設、移動方法等の保護者の満足度	3.5	3.3	令和4年度においては、バザーは新しい形を模索しながら実施できた。また修学旅行は感染が深刻ではない時期に通常通りに行えたことに対しては高評価となった。一方で暁秀祭においてのオンライン文化祭や保護者の入場制限をした体育祭に対しては、感染対策と生徒の満足度の両面から賛否両方のご意見を頂いた。	年度内のオンライン授業、曜日別登校などコロナ対策と授業を進めることのバランスについては概ね良い評価をいただきましたが、授業時数の確保を心配する御意見もありました。施設については校舎の古さを指摘いただく一方で学校を訪れた際に掃除がしっかりとできていたと評価する方もいました。行事に関しては、今年度はバザーを含めて多くの行事が中止されましたが、中高ともに修学旅行が実施できたことについては高評価をいただきました。
	ウ 行事に対する満足度・評価	遠足、合宿、修学旅行、学校祭に対する保護者の満足度	3.8	3.4		